

第8回 函館市医療・介護連携多職種研修会 分析・考察

開催方法：集合開催

テーマ：「点から線につながろう」

～本人の想いを聞いていますか？連携による地域の変化と今後の課題～

目的：多職種連携によるこれまでの地域の変化と今後の課題を共有し、本人（患者・利用者）の想いを叶える支援力を高めるために、医療・介護の連携と協働を強化する

目標：・本人の想いを叶える支援を目指し、医療・介護関係者が互いに努力・協力してきたこれまでを共有する。

・本人の想いを叶える支援のため、今後の多職種連携の必要性を考える。

・上記を踏まえ、明日から自分たちができることを考える。

【アンケート内の意見】※一部抜粋

<歯科医師>

歯科医師として関われる場面は、日常の療養支援と思われるが、その中でも口腔に関連する歯や口の中の疾患、入れ歯、口腔ケア、摂食嚥下などがあげられます。私も訪問歯科診療を行っていますが、治療や口腔ケアに時間をとられ患者さんやご家族とお話をする時間があまり取れていないのが今日のお話を介して思いました。このようなお話だけの訪問の時間もとってみたいと思います。

<薬剤師>

利用者様をケアしていく上で、日頃よりチームワークを高めていく必要があります。忙しい中でもできるだけ利用者様のお話に対して耳を傾けていくことが大事だと思いました。そして、話してくれたことに対しては、耳を傾けて記録に残すことが重要だと思いました。ACPはとろろと躍起になるものではありません。常日頃より自然に話しやすい、話せるような関係を築いていくことが重要なことだと知りました。また、入退院支援や救急の現状についても今回もまた一つ新たな知識を得る事ができました。

<看護師>

救急場面でのACPの話をする難しさや大変さが理解出来ました。看護師として普段からの患者さんとの関わり方などを振り返ることができました。入退院調整 NS としての大変さ、立上げの話にはとても共感できる部分がありました。新しいセクションを立ち上げる時まず院内に理解してもらわなければならない大変さ…難しいですね。らしさの動画は号泣です。その人に寄り添うとはいつも普段の自分がどうなのか？背筋が伸びる思いです。

<鍼灸・マッサージ師>

普段の自らの職域以外のことはわからないことが多く、今回は特に救急医療の現場の声を聞くことは貴重な機会であり救急搬送の手配をしたら自分にやれる事はないと感じていました。ですが、DNAR に関して微力ながら自分にもきっかけになる会話が生じる可能性があると感じていました。その他、他の職種の方の悩みや情熱に触れることができ、とても良い勉強になりました。

<ケアマネジャー>

それぞれの3つの発表で改めて単純に本時（本人、サービス事業所など）を想う気持ちを大切にすることがチームとして1番なのだと思います。できる事、できない事はあるけれどまずは聞いて検討してみる事、方向性をみんなで確認していきたいです。

<相談員>

高齢者救急医療の現状が聞いて勉強になりました。ACP もこれからの課題として行っていきたい。常に利用者さんの想いを家族に代弁者として伝えていけたらと思います。

<介護職員>

発表の方たちの内容が現在の私の勤める施設とリンクするところがあり考えさせられ、施設へ持ち帰り共有、話し合いをしたいと思います。職員の考えや積極性もあります。上に立つ立場のリーダーシップが大きい様に思います。お互いの職員同士の想いを共有し合うのが大切であると思います。

【分析・考察】

事業所によっては、多数の方々が参加する研修会などへ制限をかけているなか、176名の参加となった。

アンケートは、176名の内128名からの回収となっている。図2の研修テーマへの意見として、125名の方はよかったというご意見があった。どちらともいえないというご意見は3名おり、その方々からは「もう少し少人数、小規模でグループワークを行う研修会がよい」、「遅れての参加のため内容がわからない」、「医療職のことはすべて受け入れることができない、参考になるくらい」とあり、テーマ自体[△]のご意見ではなかった。その為、概ねテーマ自体は関心をもっていただけたと思われる。

アンケート内の意見から、鍼灸・マッサージ師からは「他職種の方々の現状を知れた」、看護師や施設相談員、ケアマネジャーからは「ACP の普及の必要性を確認した」というご意見。薬剤師からは「講師の方々の熱量の強さや悩み、課題を知れた。利用者をケアしていく上で、日頃よりチームワークを高めていくことや利用者のお話に対して耳を傾けて記録に残すことが重要」という内容のご意見が多数あった。

このことから、本研修の目標にあげた、本人の想いを叶える支援を目指し、医療・介護関係者が互いに努力・協力してきたこれまでを共有すること、本人の想いを叶える支援のため、今後の多職種連携の必要性を考えること、明日から自分たちができることを考えることについて、研修を通じて共有し、考えることができたのではないかとと思われる。

図3の今後希望する研修については、アンケートから「多職種連携の具体例について知りたい」といった内容が多く、内容としては、「看取りや ACP にかかわる事例などを学びたい」といったご意見もあり、日々の業務の中そのような場面に遭遇する頻度が増えていることも関係していると思われる。ACP への関心が強まっていると考えられるため、次年度は ACP に焦点を当てたテーマにて、事例などを含めた講演、多職種でのグループワークや意見交換を行い、多職種の連携や強化が図られる内容が求められていると考える。

図1 【参加者（アンケート回答者）の職種】

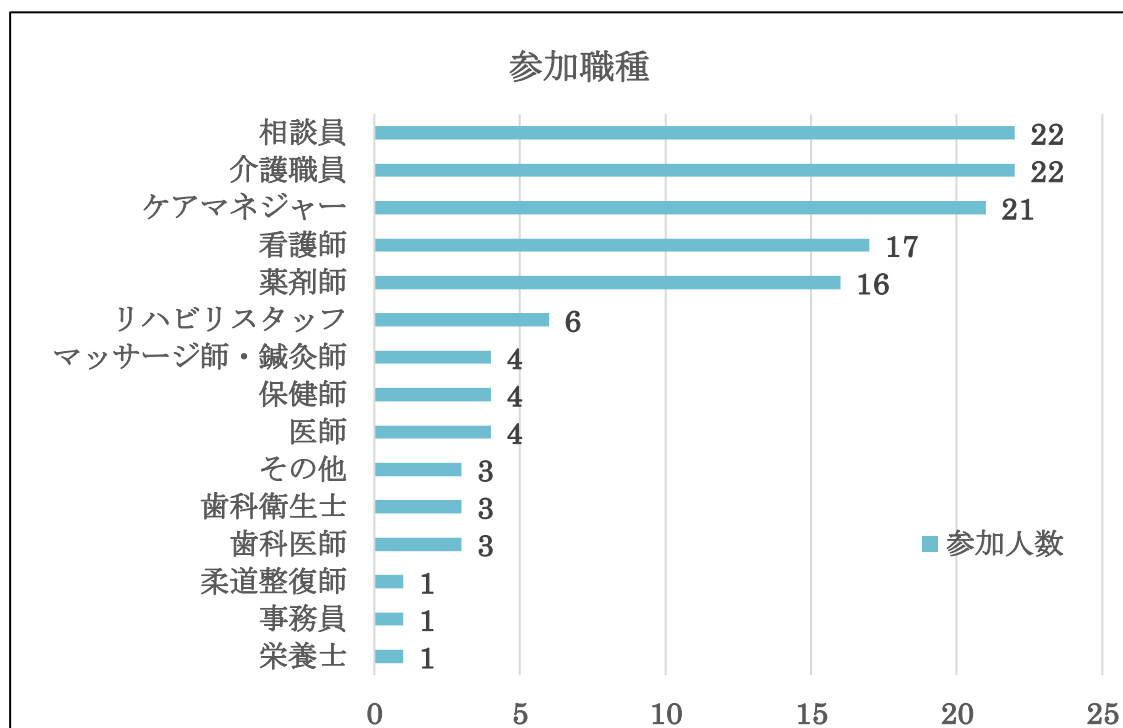


図2 【研修テーマへの意見】

よかった	125人	(97.7%)
どちらともいえない	3人	(2.3%)
よくなかった	0	(0%)

図3 【希望する研修】

多職種連携の具体例	9件
連携に関するテーマでの研修	2件
看取り、緩和ケアに対するテーマ	2件
それぞれの職種の立場でのケーススタディ	2件
多職種での意見交換またはグループワーク	1件
ACPに関わる内容	1件
医療の研修	1件